

対話から始め、AIで構造化し、 人が判断する

経営の意思決定から、プロジェクトの遂行まで。
AIを道具として使いこなすスペシャリストが、あなたのチームに加わります。

↓ サービスを見る

3つのサービスで、経営からプロジェクトまでを一貫して支援する

影武者

経営者の判断をAIが学び、
分身となる

対象：経営者・意思決定者

[詳しく見る →](#)

AI駆動型マネジメント

プロジェクトの全情報をAIが整理し、
意思決定を加速する

対象：プロジェクト責任者・PMO

[詳しく見る →](#)

AI駆動型開発

AIと少数精鋭のスペシャリストが
、
設計から開発までを一気通貫で行
う

対象：IT責任者・開発責任者

[詳しく見る →](#)

影武者 — 経営者の判断を学び、分身となるAIエージェント

経営者の判断パターン・価値観・思考のクセをAIが学習し、経営者の分身として振る舞うエージェントを構築します。経営者が不在でも、その人ならどう判断するかをAIが示すことができます。

1 対話から学ぶ

経営者との継続的な対話を通じて、判断パターンを段階的に学習します。一度の聞き取りではなく、繰り返しの中で精度が上がります。

2 判断の構造化

「文脈によらず一貫する価値観」と「状況に応じて変わる判断基準」を分けて構造化します。なぜそう判断したかの理由まで記録されます。

3 経営に活かす

社内に展開することで、経営者の考えを組織に浸透させることができます。自身の判断パターンを客観的に振り返る道具にもなります。

このような場面で

✓ 自分の判断基準を組織に共有したい経営者

✓ 自身の意思決定パターンを客観的に整理したい経営者

✓ 後継者や幹部に経営の考え方を伝えたい経営者

AI駆動型マネジメントープロジェクトの全情報をAIが整理し、意思決定を加速する

プロジェクトで生まれる膨大な情報（会議録、要求、課題、リスク、意思決定）をAIがリアルタイムに構造化します。「あの時なぜこう決めたか」が常に参照でき、部門間の矛盾も即座に検知されます。マネジメントの判断を、情報の力で支えます。

1 情報が途切れない

会議の発言、受領資料、意思決定の経緯をAIが構造化して蓄積します。担当者が変わっても、プロジェクトの文脈は失われません。

2 矛盾・漏れを即座に検知

部門ごとの要求を自動的に突合し、矛盾や依存関係を検知します。人が資料を突き合わせる作業をAIが代替します。

3 判断の記録が残る

なぜこの方針にしたか、何を検討して何を棄却したかが記録されます。プロジェクト終了後も設計意図を参照できます。

このような場面で

- ✓ 複数部門の要求を整合させる必要がある
- ✓ ベンダーが複数参画し調整コストが高い

- ✓ 「構想と出来上がりが違う」を防ぎたい
- ✓ プロジェクト終了後も仕様の背景を説明できる状態にしたい

AI駆動型開発 — AIと少数精鋭が、設計から開発までを一気通貫で行う

要件に基づいてAIが設計・プロトタイプ・コードを生成し、スペシャリストがレビュー・判断します。設計と開発が同時に進むため、動くものを見ながらフィードバックでき、構想と出来上がりのズレを防ぎます。

1 設計と開発が同時に進む

従来は設計→開発→テストと順番に進めていたものを、AIが同時並行で進めます。動くプロトタイプを早い段階で確認できます。

2 少数精鋭の固定チーム

大人数のチームではなく、AIを使いこなすスペシャリストの少数固定チームで対応します。担当者の交代がなく、文脈が途切れません。

3 要件との紐づきが常に保たれる

コードの一行一行が要件に紐づいています。将来の改修時に「ここを変えたら何に影響するか」が即座にわかります。

このような場面で

✓ システムの新規構築やリプレースを検討している

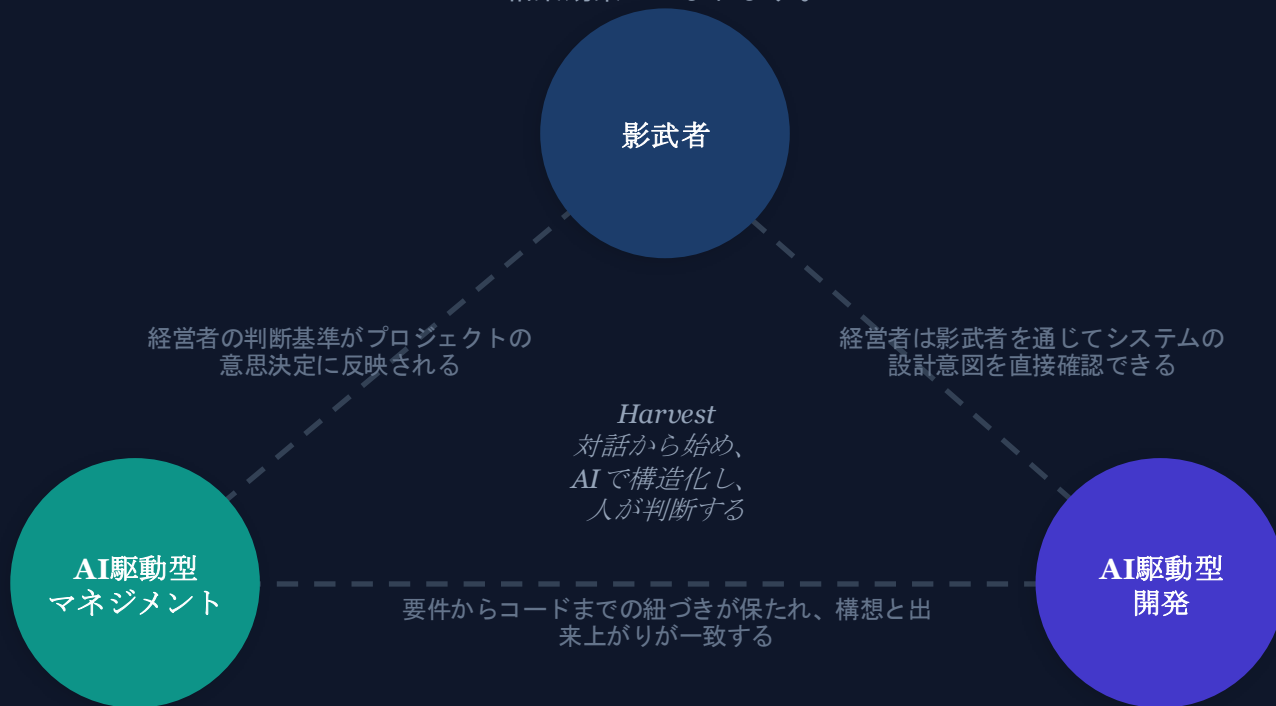
✓ 開発後に「なぜこう作ったか」を説明できる状態にしたい

✓ 小規模な機能追加やPoCを素早く進めたい

✓ 少人数で効率よく開発を進めたい

3つのサービスは、組み合わせることで価値が増す

それぞれ独立して利用できるサービスですが、Harvestの共通基盤の上に成り立っているため、組み合わせた時に相乗効果が生まれます。



3つすべてを同時に導入する必要はありません。1つのサービスから始めて、必要に応じて組み合わせを広げることができます。どのサービスもAIが情報を構造化して蓄積するため、後からサービスを追加した際に、蓄積済みの情報がそのまま活用されます。

すべてのサービスに共通する、Harvest の3つの特徴

01

AIを使うのは私たち。お客様にAIの専門知識は求めません

お客様はこれまで通り、対話の中で考えを伝え、判断していただくだけです。AIの操作や専門知識は必要ありません。AIはスペシャリストが道具として使いこなします。

02

判断するのは常に人。AIは判断の材料を整えます

AIが答えを出すものではありません。AIは情報を構造化し、選択肢を整理し、矛盾を検知します。最終的な判断は常にお客様とスペシャリストが行います。

03

蓄積した情報は資産として残ります

サービスを通じて構造化された情報（判断の記録、要件の経緯、業務知識）は、プロジェクト終了後もお客様の資産として残ります。次のプロジェクトや経営判断の基盤として活用できます。

まずは対話から始めましょう

どのサービスが適しているか、まずはお話を聞かせてください。
対話の中で、お客様の状況に合った進め方を一緒に考えます。

お問い合わせ
contact@yay-corp.com